



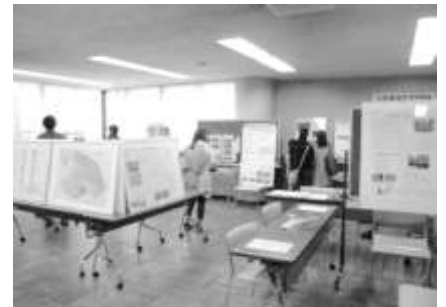
日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

第2回かわせみ館フェア開催 多くの市民の方で賑わいました

4月4日(土)から9日(木)午後3時まで、市役所101会議室及び市民ホールで第2回かわせみ館フェアが開催されました。今回のフェアでは、101会議室で日野市内で様々な環境保全の活動をしている市民団体(18団体参加)の取組みを紹介するパネル展を中心に、環境情報センター「かわせみ館」の事業内容や2014年度の活動報告、2015年度の活動予定の紹介も行いました。サワラの木の年輪に日野市の歴史を重ねた「年輪年表」やセンタースタッフが製作した「ピコ水力発電機」も展示し「かわせみ館」をPRしました。また、市民ホールでは2013年度環境白書から、水や緑、温暖化、生活環境など市民の方の関心が高いと思われる10の指標について解説したパネル展を開催しました。これらの指標に関する「白書クイズ」も実施、回答された方にはスタッフ手作りの「葉っぱや花のしおり」や「ゴーヤやアサガオの種」などが手渡されました。初日の4日にはみんなの環境セミナー「カブトムシを育てよう!」も同時開催、親子12組33名が参加しカブトムシの育て方を学びました。終了後、参加した親子にそれぞれカブトムシの幼虫2匹がプレゼントされ、子供たちが嬉しそうにしています。このセミナーにはJ:COM日野の取材が入り翌週の6日(月)にオンエアされました。そのほか、日替わりの特別展示として市民団体「水の会」、「ひの・まちの生ごみを考える会」の活動紹介や「2014年度みんなの環境セミナーパネル展」も実施しました。

フェアの期間中に来場された方は市の職員も含め約230名、展示されたパネルを熱心に見ている方や市民団体の活動内容について質問される方、クイズに挑戦する方などで賑わいました。

「かわせみ館」フェアは昨年に続き2回目の開催となりましたが、今後も市民や市民・行政協調による日野市の環境保全に対する取組みや、これらの取組みを支援する日野市環境情報センター「かわせみ館」の活動を、広く市民の方々に知っていただく機会としてより一層充実した内容で開催していきたいと考えています。



パネルを見る市民の皆さん

平成26年9月から市内の幼稚園や保育園で省エネの大切さを伝える環境学習がスタートしました

日野市では、市の地球温暖化対策「ふだん着でCO₂をへらそう」事業の一環として、平成26年9月から市内の幼稚園15園・保育園36園(共に私立を含む)を対象に、省エネ啓発を目的とした環境学習の出前授業をスタートさせました。「もったいない」を合言葉に電気や水道、ごみなどに関する省エネ行動を園児たちにわかりやすく楽しく伝えられるよう手作りの紙芝居に仕立てて紹介しました。紙芝居では「水を大切にしよう」「電気を大切にしよう」「食べ残しをしない」の3つをポイントに「青い地球を保ちましょう」と訴えました。また、「ふだん着でCO₂をへらそう」のマスコットキャラクター「エコクマ・エコアラ」の着ぐるみも園を訪問し、省エネをテーマにした寸劇を披露するなど大活躍、園児たちの熱い声援を受けていました。

この出前授業は今年度は幼稚園9園、保育園19園の計28園から申し込みがあり、約2,300名の園児に省エネの大切さを伝えることができました。園児の保護者に対しても省エネに関するアンケートを実施し、家庭での省エネの取組状況や取組意欲について意識調査を行いました。その結果をみると、省エネのために毎日実施していることの上位3つは、「人のいない部屋などは、こまめに電気を消す」「家族が一つの部屋で過ごすよう心がける」「洗面や歯磨きをするときは、こまめに水をとめる」でした。暮らしの中の小さな省エネ行動の積み重ねが地球温暖化対策に貢献します。



園児に大人気エコクマ・エコアラ



熱心に耳を傾ける園児たち



紙芝居で盛り上がり

環境基本計画推進会議グループの紹介 2-2

日野市では第2次環境基本計画を遂行していくために、みどり、水、ごみ、CO2の4つの分野で市民と市が協働して取り組んでいます。今回はみどりグループ主催で行われたみんなの環境セミナー「失われゆく緑・残された緑」の報告でみどりグループの活動の一端を紹介しましたが、今回はみどりグループの活動の全体的な紹介です。

<みどりグループ>

2011年、ワーキングチームによる協議を経て、『第2次日野市環境基本計画』が策定されました。その中の「みどり分野」の重点施策の中に、「残したいみどりの選定」「生き物マップづくり」があります。みどりグループは、上のワーキングチームを前身としたグループで、この2つの施策を市とともに協議しながら進めてきました。

2012年2月から、グループでは市内の公共施設での展示やイベントの際の展示で、「残したいみどりのアンケート調査」を実施しました。日野市の大きなマップにシールを貼ってもらいながら、「あなたが推薦するみどりの場所はどこですか？」とお訊ねするものです。それを集約した結果に基づいて、メンバーで市内をブロックに分けてそれぞれの足で歩いてみたり、グループで歩いたりしました。また、2014年10月には、一般参加者を募り、高幡不動周辺のみどりを見て歩きました。その時には、美しい緑だけではなく、開発等で失われた緑も皆で目の当たりにし、これらの場所を残していくことの難しさ・課題を共有しました。また、市と市民の力で残せた場所も訪ね、その努力の経緯を知りました。

このような学びを伴った成果を、報告書にまとめている所です。また、市民のみなさんから寄せられた「残したいみどり」をマップに落とした結果を現在、市のウェブサイトで公開しています。これから環境基本計画中間見直しの検討が始まりますが、次の5年で、これをどう広げ、緑のことを考える市民を増やし、育てていくかという課題に取り組んでいく必要があると考えています。

- ・活動場所／活動日：かわせみ館にて、毎月1回 土日いずれかの休日 午前または午後2時間程度で会議（日時はその都度決定）
- ・参加人数：通常 市民6～7名、緑と清流課1名
- ・情報発信の方法：メールでメンバーに前回の議事録と次回の会議日程を連絡
- ・参加希望者は、かわせみ館にお問い合わせください。
- ・代表者：佐藤由美子（日野市東豊田）



日野の魚たちの現状とその保全（その3）

<用水に魚を呼び戻せるか>

鶴田 大三郎（水生生物研究家）

前号（第14号 1月10日発行）で浅川と多摩川から取水される用水は浅川水系が水は枯れやすく、多摩川水系は水が枯れにくいと説明しました。しかし、近年の集中豪雨の影響ですべての用水で水量が制限され取水、通水が行われています。日野の用水の多くはまだコンクリートで3面が固められた場所が大部分を占めており、生態系に配慮して改修された場所は数えるほどしかありません。水量が減少すると、魚が生息できる水域は自然石が堆積していたり水草が生えていたりビオトープされた場所など、ある程度の水深が保たれた場所に限られます。そんな場所も長年の経過で自然石が埋もれて水底が平坦になった場所が多くなっています。水量が十分な時には問題がなかった場所も、水量の減少とともに魚の隠れる場所が少なくなり、夜間にアオサギなどのサギ類の絶好の餌場となっています。

水を切らさないことはもちろんのことですが、水量を少なく水管理する場合には、川底を掘って少し深くしたり、沈み石を掘り起こしたり、ビオトープ的空間を増やしたりと、少しでも多くの魚たちが外敵から身を守ったり小魚が育つ環境を増やしていくことが求められています。

日野用水は水質がきれいなことで知られています。昨年8月18日に都営栄町アパート前の親水路が水枯れの危機に瀕しました。魚の救出を行い約200匹程を上流に移動しましたが、ぎりぎりのところで緑と清流課の適切な対応で水量を確保することができました。夏場に水田の水利用が増え絶対的な水量が不足した結果だったのですが、その折救出した魚の中に20cm程のギバチも含まれており、用水の水質がいかにきれいかを再確認した次第です。

このように素晴らしい用水も、今後は水量の少ない状態で維持されていく運命にあります。子供たちがいつまでも網を持って魚たちと接せられる用水であり続けるためには、水量や水質の変化などを監視したり環境整備を手伝ってくれる市民の方々の協力が不可欠となってきます。

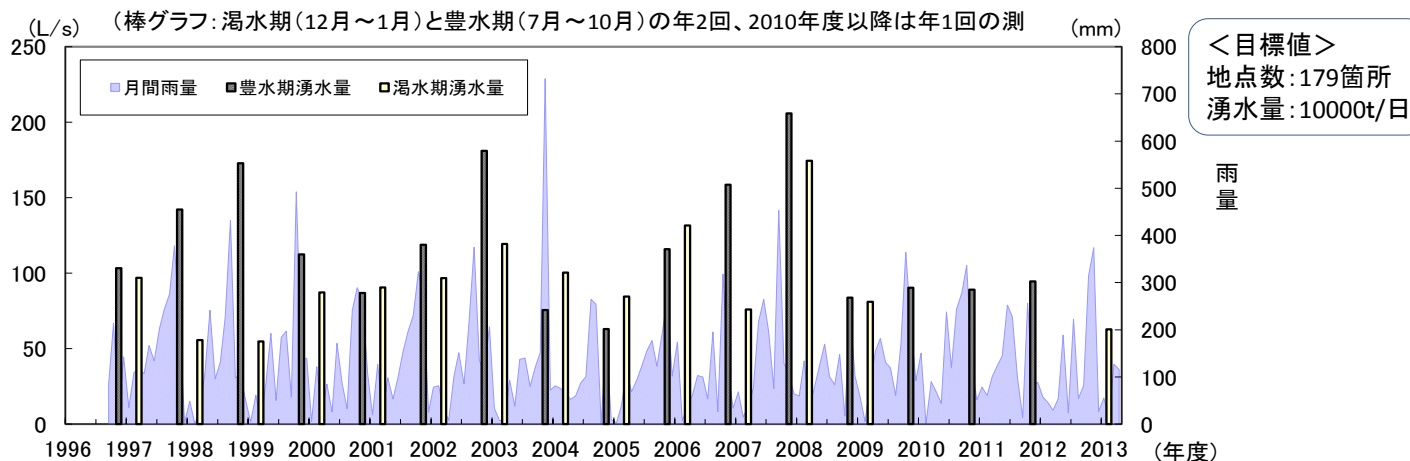


水の枯れかかった親水路



救出されたギバチ

■2013年度 日野市環境白書から① 「月別雨量と調査地点の総湧水量はどのくらい？」



2013年度の日野市内全域の総湧水量の調査は渇水期である冬期(2013年12月～2014年2月)に実施されました。湧水調査数は126地点で、湧水総量は62.8ℓ/秒(5430t/日)でした。この126地点の渇水期の湧水量で1年間の総湧水量を計算すると約198万tとなり、これは東京ドーム(容積124万t)1.6杯分になります。また、湧水量として「浸み出し・溜り」や「枯渇」になっていた地点数は35地点で調査地点総数の28%でした。

湧水量に関連する2013年度(2013年4月～2014年3月)の降水量は1595mmで、2012年度(1344mm)より多くなっています。2013年度は冬期の調査であり2012年度の結果と直接比較することはできませんが、冬期調査の行われた2009年度(冬期112ℓ/秒)に比べ湧水総量は4割ほど減少しています。



谷仲山湧水地

■平成 26年度「エコキング冬」の調査結果がまとまりました

平成26年度「エコキング冬」の調査結果がまとまりました。「エコキング」とは、市内の全小学校にご協力いただき、小学生のいる家庭の夏と冬のある1日のエコ活動を通して、CO₂がどれくらい削減されるかを調査するものです。日野市環境基本計画推進会議CO₂グループ主催で平成18年からスタートし今回で16回目です。

今回は昨年の12月13日(土)の1日のエコ活動について聞きました。市内小学校の全児童数9,275人(平成26年5月1日時点)の約68%にあたる6,277人が参加し、下記の7つのエコ活動の実施状況を調べました。実施率が最も高かったのは「家族が一つのへやで過ごすようにする」で85.5%、最も低かったのは「テレビを見る時間をいつもより30分短くする」で63.8%でした。7つのエコ活動のそれぞれの実施者数にその活動で削減される1日分のCO₂の量を乗じてその合計をみると全学校計で削減されたCO₂量の総量は3,702,804gで、1日でテニスコート約14.8面分の森林が1年間に吸収するCO₂が削減されました。したがって1年間続ければこの365日分で、CO₂削減量は約1,351tとなり、テニスコート約5,400面分の面積、これは日野市の森や林の面積185ha(2012年度)の約1.46倍となりますが、この面積に相当する森林が1年間に吸収するCO₂が削減されることとなります。

*テニスコート1面(約500㎡)当たりの森林が1年間に吸収するCO₂の量250kgで換算

<エコキング 7つのエコ活動とその実施率 平成26年度 冬>

- | | |
|---|--------|
| 1 買い物にマイバッグを使いレジ袋をもらわない(62g) | 75.5% |
| 2 テレビを見る時間をいつもより30分短くする(48g) | 63.8% |
| 3 家族が一つのへやで過ごすようにする(108g) | 85.5% |
| 4 シャワーの使用時間を1分減らす(81g) | 81.0% |
| 5 電気製品を長く使わないときは主電源をオフにするかコンセントからプラグを抜く(165g) | 72.58% |
| 6 暖房機のスイッチは外出や寝る直前ではなく15分くらい前に切る(40g) | 69.3% |
| 7 お風呂には家族の人と続けて入るようにする(245g) | 84.5% |

* () 内数値は1日で減らせるCO₂量 但しエコ活動3は4時間分



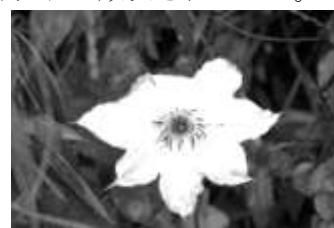
■1~3月の活動報告

1月31日(土)~2月13日(金) 「日野の貴重植物」写真展

市役所1階市民ホール展示企画第6弾として開催。写真は主に25年前(1990年)、播本正常氏がまとめられた日野市内に生育する約1,000種の植物のリスト「日野の植物」に基づいて収集された植物の写真1,200枚のデータベースから選んで展示しました。すでに絶滅して日野市内で見られなくなった植物も含めて、丘陵及び緑地、河川敷に生育する貴重な植物を紹介しました。メモをとりながら熱心に見ている市民の方や、解説文の出典となった本について問い合わせをされる方もいました。また、J:COM日野の取材もあり、2月6日に放映されました。



J:COM日野の取材



シロバナカザグルマ

「日野の植物データベース」について

25年前日野市公園緑政課では、当時日野の自然を守る会会員の播本正常氏がまとめられた日野市内に生育する約1,000種の植物のリスト「日野の植物」に基づき、このリストにある植物をすべて撮影することに取り組み、播本氏をはじめ市民の方々の協力で約1,200枚の写真を集めました。このたびこれらの写真をデータベース化したので、閲覧をご希望される方は電話でお申し込みの上、環境情報センターまでお越しください。25年ほど前の市内の植生がわかります。



25年前河川敷一面に咲くカワラノギク

4月1日(水)~9日(木) 「2013年度日野市環境白書」パネル展

市役所1階市民ホール展示企画第7弾として同時期に開催した「かわせみ館フェア」と連動したパネル展です。2013年度日野市環境白書から市民の皆さんにとって関心が高い水や緑、ごみ、大気汚染など10項目の指標についてわかりやすく解説しました。市の環境保全の現状を知っていただくとともに、白書にも関心を持っていただけたようです。

4月4日(土) みんなの環境セミナー「カブトムシを育てよう！」

「かわせみ館フェア」のイベントとして開催。小学生の親子12組33名が参加しました。講師は日野の自然を守る会の森川正昭氏で、夏休みになる頃に成虫が羽化して出てくるよう上手に育てるコツを伝授、熱心にメモをとる姿も見られました。参加者には幼虫2匹がプレゼントされ、子どもたちが嬉しそうに持って帰りました。

* * 4月~6月の行事・イベントのお知らせ * *

6月中旬 「日野の昆虫たち」写真展

「日野市の生きものたち(生物多様性)」シリーズ企画第1弾として市役所1階市民ホールで開催します。今後、魚や野鳥、小動物、貴重植物など市内の生きものたちの写真展をシリーズで展開していく予定です。6月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

6月中旬 みんなの環境セミナー「カブトムシの仲間たち」

「日野の昆虫たち」写真展と同時開催で、市内に生息する昆虫たちについてカブトムシを中心に日野の自然を守る会の森川正昭氏に解説していただきます。6月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax:042-581-1164
Eメール: kankyo@m2.hinocatv.ne.jp